犬扇
二

田井天神宮八百五十朞祭祀

獻章序

大矣哉

天滿宮之德日暉水融無所不照靡

所在矣乃

本藩者其神裔而國富民饒咸是

所以冥護於

君恩也故士庶尊仰亦超他焉今
茲二月念五日八百五十載之禋
儀海內雖傾汪以竭崇敬特於
邦家禘祀之大典也是以凡自
北野廟而至
藩內大小之
靈祠或下令或隨例各致盛享之禮
彬〻焉夫文雅者固
神所愛故朝野詞騷之徒孰不思薦章
哉只願此錦帖上親書乎其所好諸
體之吟稿以獻之則
昭鑒在天亟錫福祥也必矣是故今復
告報勸誘之其規一〻若八百年之
舊亦唯每旦舉唱其連名精禱祝移
者實不背前盟矣普請人〻能努力旃
于時寶曆二年二月九五日

匂ひあり梅乃兄わり神祇香　柳燕園　都夕

ゆふの白拭清境春　一巴

春寒さ仕乃身笠れ東風　楚雀

まさりよ蓋鶯一声の陸奥人　布青

枕草子鶏雛孔雀のみをへて　如邑

板すまけてを解れ雪　浦秋

西市乃矢仲よ見る豆れ月　芦白

一市乃けふ村うのうん　東史

かくまひも頭へ点を包ちと　竒晶

行竹のトよりとうとうの　芦全

きれ乃ゝ字治を素敵よ出て　末心

俤名乃みを鶯袋の絞ひ　朱簾

行のゝみ仲ゝ方れるん西う路　枝雀

茶て光彩茶者ん戸望　竒蝶

中人乃孫ゝ子ゝんのすう動　林鶯

身光一茶乃眠くゑ枯　柳雫

笠焼めに横きれ多き　野文

[illegible]の[illegible]あの清府　素朋

格子かく振袖そろり出て花ひ　芷珍

いそれぬ事をくみて石　見風

[illegible]氣乃深[illegible]方[illegible]　幾窪

玉垣地[illegible]苗代　筆

未略

香乃[illegible]の[illegible]梅の花　如邑

梅の香や神[illegible]深き[illegible]　芦白

[illegible]梅い灯[illegible]　浦秋

[illegible]梅や神[illegible]　宋心

[illegible]神の威力をむめの[illegible]　芦全

乙女乃[illegible]梅乃白ひる　奇晶

毒[illegible]梅の[illegible]　東史

[illegible]梅や白[illegible]　女 朱麓

梅の花白し　むめ　枝雀
神風や毒うる酒も新世の風　仙風
うるわしく庵に咲き梅のみ香　寄竹
さもうつくしや青ざくら梅の色　林言
水のもの梅ぶし勢こそ有　一巴
白梅や墨をすりそう二柱　布青
陣や毒を奏者乃酒ぶまり　芷珍
神を恐るる此花を見て　見風

梅咲くや井のうき瓶ひとの墨　五柱
松梅を中に植るめ　二柱　湖狄
垣結ふ小ぶ梅を一かさる　佐る
竹ぶ実をうめて神の梅　文礼
令毛ぬ菓や業をもとめ梅　坪雀

梅のひとりを三寸ばかりなる同の
いとをこの数よ酒ばりとしかとやなる
しけ実曲をまりぬ只乳くい和光同塵のみそ
ふり給えるをぬるいきばりの梅ゆ

水巻亭　楚雀

紲敷尊影

玉泉寺

百年乳よりの梅や神さび給　柳箭舎　笑窪
小梅やみつく神さびる　布青

梅の香を尋ぬる乳き若びの邪　一巴
ふりくしの井籬を乳く梅の月　素朋
梅の香を迎ぶるかの神意　楚雀
朧月八重ぶりの梅の心を乳び
いつき乳ふる土産ん

竜柱白くちりむえ乳花　申石子　希因
神代あるぬるいき梅の宗　イセ　笑晴
梅ゆ来てるゆ出花　左静

梅さくや　芦丸

神さびて身に向ふ梅の巻　後川

梅の香や園生の筍折わたす　如本

曲水や石梅樹を雑新附　蘂史

梅ちる花や清華社神の坪　可枝

花梅や神垣ふるく新戸より　芦洲

石梅さかりや神垣ふるく裏　倚之

爰塗の袋ふくやもんのえの　竹話

竹筒乃日ぞまつ宮もしめのふ　貴追

清流の夜雪ぞ梅さく巻　壺市

柏手も枝を出るや物のえの　東吾

神垣や毒社を枝と日傘　烏石

戴とは笠もかうや物乃花　里橋

社垣や乃和も毒社毒　梅里

白梅や雪社は竹雪星明　奇仄

梅咲や山連の清らも一本　泗平

通盛ゝ和尚をとゝなうめの花　芝芳

白梅や紅ひの浮れ紅　仙風

神垣ゝ梅ゝ梅のうめ　古童

梅ゝ紅ゝ紅の焼ゝる　巴丈

八百五十年ゝれも梅の花　一舟

毒ゝ書ゝ廣ゝ書ゝ　風量

神ゝ呂ゝ呂ゝ梅の花　女 珈涼

ゝも梅ゝ梅ゝ梅の花　松任女 千代

及梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ梅の花　女 さよ

州合ゝ出ゝ画ゝ梅の花　里朝

出ゝ仏ゝ出ゝ香ゝ初詣　桃里

事ゝ香ゝ香ゝ梅ゝ梅ゝ奥　乎哉

変ゝ梅ゝ梅ゝ梅ゝ一ゝ　泳亮

梅ゝ出ゝ八百五十年　左菊

鏡尊影

西方寺

清ゝ洗ゝ清ゝ清ゝ清ゝ　幾雀

[illegible] 布青
神垣[illegible] 一巴
[illegible] 素朋
[illegible] 牧雀

稲荷別社　眞長寺

[illegible] 笑雀
神[illegible] 布青
[illegible] 一巴

[illegible] 素朋
[illegible] 牧雀

祇園摂社　願行寺

[illegible] 笑雀
通[illegible] 布青
[illegible] 一巴
毒[illegible] 素朋
[illegible] 牧雀

主引

[illegible]りくれはよ詠[illegible]流月　麦水

梅[illegible]仲女の[illegible]育[illegible]　菊人

[illegible]而社[illegible]も[illegible]仲[illegible]　泊　[illegible]文

神敷尊像

しるしあり雲[illegible]　成学寺

清百度参詣[illegible]　[illegible]崖

[illegible]仲を[illegible]　布青

一巴

加法を未[illegible]敷[illegible]　素朋

神[illegible]実も敷[illegible]　[illegible]

其節

何人そさ[illegible]　秋の場

[illegible]神乃[illegible]　舎采

[illegible]　一宮　晋[illegible]

[illegible]神も[illegible]　芷珍

[illegible]　希因

本社

寶来寺　十

神垣や苔ふるむすの燕ちの巣　幾窪

鶯の巣おかしくれしこの邨　布青

燕来清百度をやしの中うつり　一巴

しるべの杉を捧げ奥社院　素朋

清水や御手洗くれしら　牧雄

四所明神別殿

寶久寺

鶯の百度詣や天満宮　幾窪

清水流れ新竹鶯の声　布青

神乃田のよきれ帰り乃　一巴

足洗を頭下ろしや　素朋

俤名乃神や鶯の声　牧雄

三社摂殿

常光寺

宵の月鶯ちゆきしれ　幾窪

灯明の清水鶯の鄙の水　布青

しる女子れを風ふきて清しれ　一巴

[illegible]　素朋
[illegible]　牧雀

長田本社

葉乃ふや　多忠社　蟬の丈婦連　栄雀
あのそれや　灯ハ　ふ羽雲乃一雲　布青
葉乃花や　聖社　乃　亜之　一巴
なりなるま　入達　[illegible]　道　素朋
葉乃ふや　桃け　乃　灯　玄　牧雀

成應寺

出雲寺

山吹て　[illegible]　や小ちうき　栄雀
やまふま　や乃　乃　を神の乃衣　布青
忘れ　[illegible]　山　[illegible]　一巴
山ふき　や垢離　乃　乃乳　素朋
[illegible]　や　い　[illegible]　牧雀

大社別殿

奥院尊像

放生寺

海棠や　社　[illegible]　娘　乃花　栄雀

かいそう男うの孔雀孔　布青
海棠や何の孔雀お神ゑの孔　一巴
海棠や幾つ孔雀神の宮　素朋
うゝそう通ぶ茶を眠を芝の色　牧雀

山王摂社

弘法院

鈴人乃舞ひけり土筆糸　笑窪
那も山も新ら乃ちらやはらく　布青
奉納のむ物れる土筆　一巴

清を洗ひそきく書む土筆　素朋
精乃ま也神乃恵ゆ清く　牧雀

三寸天神

燈明庵

玉垣も解ハやそく朱を梅う那　笑窪
灯明ゆそも拾ゆ糸ほたき　布青
獅ゝ舞乃ちゝ向きゆ梅糸　一巴
小坊主を神垣ゑ新ほきる　素朋
三木上ゝゆも清きゝと梅小　牧雀

白髭別殿　持明院

さほひめの白髭なる神主　実窪

彼保姫梅を結ぶやうの郡　布青

乃ぶ宮めぐりの軒神興丸　一巴

さほひめを詠の言葉神乃言　素朋

法保姫や結ぶ手まくの神　牧雀

八幡摂社　安江社

青柳の幹のきくり　実窪

鞍おくに結るも一ふしの柳う郡　布青

柳うの風も吹やき髭　一巴

注連縄を四ちもちわ掛る柳ル　素朋

代垢離乃背中柳の柳丸　牧雀

そみやけ

青柳を青ゑ波ルや小ち綿　乙美

真風ゑ靡ぬ人ぬ柳う郡　鬼承

ちもち芝わくひしもゑ下葉やなきうる　梅士

魂殿〳〵の柿の老神に　郁律

咒詛のきりぎりす柿の蛙　蛙井

蕣や柿の新もち鐘一　杜九

普門品尊像　崇禪寺

鈴り人ハ芝〳〵小蝶老眠りの姿　炭窟

乙女子髮ゆ〳〵胡蝶ハ　布青

下戸なぬ蝶くさまれ三寸徳利　一巴

蝶〳〵や神うき今ハ神に老若　素朋

蝶〳〵や回れうき神ハ男　牧雀

二十一社別殿　淺野社

苗代老札所〳〵や蛙乱也法　炭窟

苗代や三ゑ坊れ法連乃うち　布青

ありゝ乃や蝶ゑ〳〵ゑ玲の風　一巴

清水流ゑ青り田苗代田　素朋

苗代や紫山ゑ社牡蛇神に　牧雀

ゑ引

百代やみてゝ清く神の石　可枝

ふりゝやゝ蝕つぬえの枝も　誠山

百代や不絶よるべき水乃音　亦亮

春日別社　神田社

巻雲乃向き吉野けみつさ山　笑窪

宅乃山神乃奥社角も那し　布青

万年の松乃ゝ花ぞ香　一巴

八橋乃わすれ草乃ゝ紅　素朋

猛き猛くゝ雲ゝ神の花　松雀

吉土産

法神乃山乃ゝ八ゝ巻ゝ鹿　北枝

宅乃帰ゝ巻ゝ松や新清め　和歌

新白ゝ巻ゝ花添ゝ白鷺　左里

神風や巻ゝ巻ゝ巻ゝ巻ゝ　安之

巻ゝ新ゝ仏利や神乃ゝ郷　山隣

妙義相殿　乗龍寺

[illegible]　　[illegible]

八[illegible]　　布青

[illegible]　　一巴

世[illegible]　　素朋

[illegible]　　牧笹

多門天相殿

来教寺

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　布青

[illegible]　　一巴

[illegible]　　素朋

[illegible]　　牧笹

鎮護寺

感應寺

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　布青

[illegible]　　一巴

[illegible]　　素朋

鬼門守護　牧雀

偈

五〻圓通應化身　隱市軒僧　隣仁

正觀自在現天神

王佐貴嶽菅家祖

鎮護三刹利万民

神明相殿　卯辰八幡

[illegible]社　[illegible]

[illegible]　布青

[illegible]　一巴

[illegible]　[illegible]

[illegible]　牧雀

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　栫戸

[illegible]　舍衆

宇賀相殿　　天道寺

白髮丁岩の社神　　茂雇

小奥や　　布青

きりとや　　一巴

桂川

数茶丁白髮社一丁　　素朋

白髮や　　牧雇

乾真寺

松尾相殿

若叶や牛　　茂雇

若叶や　　布青

わらはの　　一巴

神事馬

きりとの　　牧雇

田井本社　　天満宮

清百度や　　茂雇

冠　　布青

松殿

松若　　一巴

社

神垣や一階高き雲殿の　素朋

松ばかりの中の祈り解よりの　芝雀

寄引

千かさねの運ぶ雲の巻　希因

八百屋十郎みたりの花　湖狄

詠るも玲瓏の春神の宝　信凍袋

餘慶三社香林寺梅

続若の人とり給ふ

三月も九十日ばかりの高き

ちるうんとする下向の石を拾く

年かさねて神の松ばかり梅　言外の見風

其ちるうんとの玉の花　朋矩

何ちるかの鶴ばかり　雅雀

世界八重咲の梅の花や

ちるうんとの花の雪

神垣や梅も古木は枝つるる　朋矩

剃れも奈ゝなるむめ乃ゝさゝ邪　竹雀

主引

高枝ゝさゝ乃ゝ枝さゝ梅ゝ　麦林下　乙由

堅樹を自立ゝむさゝ乃ゝむゝ乳　芋杉

文通

毒ゝ者ゝ枝ゝ梅ゝ　イト　自鈴

梅ゝ者ゝ人ゝ淨ゝ神ゝさゝ月　小松　乃露

此神さゝ二枝ゝさゝ者ゝ　全　二峰

西ゝ世ゝ乳ゝ枝ゝ梅ゝさゝ枝ゝ邪　全　山叩

新ゝさゝ乃ゝ月ゝ乳ゝ神ゝの梅　全　南尹

嗚呼ゝ自ゝさゝ者ゝむゝ乳ゝさゝ邪　全　里考

須連濃ゝ枝ゝ千ゝ里ゝ者ゝ梅ゝさゝ巻　全　之中

野物ゝ乳ゝ八重頃ゝ枝ゝ者ゝ邪　ハヤタ　里丸

風自乳ゝ枝ゝ者ゝ毒ゝさゝ乳　濱川　知十

むゝの者ゝ枝ゝ風ゝを婦ゝ乳ゝ節　本吉　大睡

さゝ枝ゝさゝ乃ゝを神ゝ乃ゝ也　フクノ　其汀

年ふるまつもハ百とせ地　泊　枝貞

春雨ふるくゝ人のまちやゝ神の物　石動　岨邑

さゝなみ詩を議沢やむえのさゝ郎　言茶　布役

ふるさとも春ハ一雨や梅乃さゝ礼　ようやく　麻又

翠雲寺桜

顔ゝあ礼雲ハ雲ゝ之礼ゝ　朋雉

小竹ハ尚ゝたゝ礼ゝ孫乃新葉　和雀

出代ハ一雨ゝゝやゝゝ　見凡

旨人乃移ゝ礼ゝ行ゝゝ礼　勺空

清ゝ礼ゝ山ハゝふゝゝ郎　見凡

未社ゝゝゝ礼ゝゝ桜ゝゝ　和雀

門前乃泉ハ新ゝゝさゝゝ如　小雲　古流

弱犬ゝあゝゝ尚ゝゝ桜ゝ郎　清　大睡

波著寺松

松ハゝ礼作ハ氏ゝハゝゝ　和雀

[illegible]首代表的連　見風

振雪の一二月　[illegible]　朋矩

[illegible]

神風の松をゆるがす波　朋矩

雪祝ふ[illegible]新古くさし松乃[illegible]　見風

[illegible]ひ[illegible]神乃

代の初[illegible]代くるつきて[illegible]

あるみの神をうつしかへ今よりかれやまもの

[illegible]のあるかぎりの世の人乃

[illegible]けるかの云事乃

[illegible]きかなのあり八百万千[illegible]

乃[illegible]てさかろくるん

[illegible]をひ[illegible]えをわしよあ[illegible]

あるも[illegible]ぎも一とまれ[illegible]ひとの後

[illegible]れ世[illegible]八廻の[illegible]

こゝろ八卦をさとしゝ此画図に
稚きものまでみなわらひあひて
を作り給へるがけふもよろこびき
かしこ民人おのれて知れ清し
しやあはせのさるも事なれ

申
如月廿二日

松の梅の氏子ある春あれや　芳雀

笠ぬいて鳥も続く鶯かな　杉雀

川越の松も更畠も晴しく　一巴

ひとりて耳礼きん出かけ　東朋

不二殿の琴の郷ある雪も　部夕

風となる人をとめるの萩　女 朱屋

青雲礼ふきん紙かゝるかな　布青

新を作りての礼待ちけり　芦白

[illegible]　　未心

[illegible]　　朋矩

[illegible]　　浦秋

[illegible]　　如邑

[illegible]　　寄鼎

[illegible]　　東史

[illegible]　　賀文

[illegible]　　柳東

[illegible]　　秋堂

[illegible]　　青塘

[illegible]　　芦全

[illegible]　　見風

[illegible]　　芝弥

[illegible]　　年

八百五十年神事

ふりを為てくれ神社業　赤夕

寄見や寄まる新神業　如本

十ゑれ花やいふくるとり　茶文

新向来遠為永一松社事　弁治

清る流てくらくや業の新　浴夕

神意きちりを乃みうるる　杉町

法法姫社来くる源神業松　巨井

塵也新為清や神社業　百巻

為代て祈る為わり神の松　奇晶

東風や松乃ゑきも東方の　亀文琴

十ゑり来神てはりや花の業　左圭

八百五十社きみうや神松　鬼乙

猶旨松の世界て業ゑ　春波

ちゑや拙神代の業や為　八竹合封卜

大和新載神の沼と書し柳蒸岡の
陸もやをいそれ清忌所の水
水底をうつる天満宮乃
幸鄰みてあるふ松を巻を見き
梅はうひうもやをの林を
ありくーとそさの社をみそらま
書分ゆれを第四巻をうつ

是を神をして東我書
友よ人すれを巻むを小れ
梅をいうんと云ふ

東隠舎
一巴

第月れをめ
杉我呂公云

帝国図書館蔵

大和國神の浦と書し柿蔭閣の
壁にやどりいそれ清忌にのぞみ
水鏡をうつす俤つひに天満宮乃
幸祭にあるふれる巻を見き
梅はうひうしやの神恵
あるべしとそさの社にまうら
書分けれを筆角にうつす

是を神にうつして東武書
友よりすれを見むれ
梅をいとと云ふ

東陰舎
一巴

寛政四年
於武昌山

きらのもん